

平成30年度(2018年度)

厚生労働省障害者の芸術文化活動普及支援事業 実施記録

①障害のある人のアートの「橋渡し」を考えるためのセミナー

近年、障害のある人のアートは注目を集めつつあり、さまざまところで展覧会やイベントが行われています。それにともない、「障害のある人のアートをどう評価していくべきか」、「アーティストの知的財産をどうまもるのか」、「作品をどう販売していくべきだろうか」と、様々なトピックが議論されるようになってきました。これらのアートを取り巻くトピックについて考えていくことは、アート活動を社会に伝えていく方法を整備したり、新たな発信の方法を生み出したりすることにつながり、つまり、アートと社会の「橋渡し」を考えていくことになるのではないのでしょうか。

障害とアートの相談室では、これまでも障害のある人のアート活動に関わる様々な事柄を取り上げ、深めてきました。本年度はそれらのなかから、特に「橋渡し」をテーマに4つのトピックを取り上げ、議論していくためのセミナーを開催したいと思います。

<第1回:アートの販売を考える>

作品を見せるだけでなく、売買していくことも、障害のある人のアートを社会につなぐ重要なチャンネルです。そこでは作品の完成度だけではなく、作家の将来性や創作活動の経緯など、様々な視点から作品の価値が決められていきます。また、これらの価値を図り、高めていくことは、アート活動を障害のある人の仕事としていく上で重要な側面でもあります。そこで、実際に作品を生み出し、活発に販売を行ってきた施設の代表を招き、アートの売買に関する取り組みを学びます。

日時:11月24日(土)13:30~15:00

場所:難波神社(大阪府大阪市中央区博労町)

講師:白岩高子(特定非営利活動法人コーナス代表)、日垣雄一(株式会社YELLOW代表)

聞き手:岡部太郎(一般財団法人たんぼぼの家)

参加費:無料

<第2回:アートのアーカイブを考える>

アートの様態が多様化し、有形・無形を問わずいろいろな形のアート作品が生まれている現在、それらをどう保存していくべきか、ということが盛んに議論されています。特に障害のある人のアート活動においては、作品だけではなく、本人の生活スタイルや周囲の人たちとの関係など、それが生まれた環境の中にこそ大切な価値があったり、作品として作られたものではない、日常のふとした営みやふるまいに魅力が見出されることもあります。

このような日常との境界が曖昧なアートを取り出し、他者に伝えていくにはどのような方法があるのでしょうか。人々の生活に根ざすアートを、映像等を通じて研究してきた研究者を講師に招き、そのヒントを学びます。

日時:12月21日(金)18:00~19:30

場所: GoodJob!センター香芝(奈良県香芝市下田西)

講師: 川瀬慈(映像人類学者、国立民族学博物館准教授)

参加費: 1,000円

<第3回: アートの評価を考える>

アート进行评估ということは、作品の魅力や意義を言葉にし、人に伝えるということであり、「なぜアートが人間や社会に必要なのか」ということを考えていく重要なプロセスです。特に、障害のある人のアート活動は、その作品の芸術的な良し悪しだけでなく、アーティストが歩んできた人生や、その制作の中で生まれた他者との関係性など、作品にまつわるプロセスや生活などの背景も評価の対象となることが多く、多様な価値のほかり方が求められます。そこで、アートのプロセスや社会的コンテキストを含め、幅広い視点から評価や批評を行ってきた評論家を招き、その価値を図るまなざしを学びます。みなさまのご来場をお待ちしております！

日時: 2月7日(木) 18:00~19:30

場所: 京都場(京都市中京区西ノ京南聖町)

講師: 榎木野衣(美術評論家、多摩美術大学教授)

聞き手: 岡部太郎(一般財団法人たんぼぼの家)

参加費: 1,000円

<第4回: アートにまつわる知的財産権について考える>

近頃、障害のある人のアート作品をグッズ化したり、デザイン化したりして販売していくような、知的財産(知財)の運用によるビジネスが少しずつ生まれてきています。知財には「著作権」、「意匠権」など、たくさんの権利や法律、契約などが関わっており、一見すると複雑で堅苦しいものに見えてしまうかもしれません。しかし本来、これらはクリエイターたちの表現を守りながら発信していくために整備された権利であり、上手に活用することで、より効果的にアートを世界に広めていくことができます。そこで、積極的な知財の運用を考え、実践してきた弁護士や福祉施設の職員を講師に招き、第1部では「クリエイティブ・コモンズ」と呼ばれる知財運用の考え方について学ぶためのトークを、第2部ではカードゲームを用いた、知財の基礎について学ぶための研修を行います。

日時: 2019年2月13日(水) 18:00~20:00

場所: GoodJob!センター香芝(奈良県香芝市下田西)

講師: 橋本高志(社会福祉法人ぷろぼの職員、ゲームデザイナー)

水野祐(弁護士、シティライツ法律事務所)

聞き手: 藤井克英(GoodJob!センター香芝)

参加費: 1,000円

②「めぐるアートをめぐる」展 @京都

障害のある人の日々の生活のなかから表現が生まれる背景には、作者の才能や努力だけではなく、環境、人、道具、仕組みなど、周囲のさまざまな関わりがあります。また作品と切り分けることができない

日々の関わり合いや名付け得ない行為も、創造的な人間の営みとして、注目が集まっています。この展覧会では近畿2府4県および鳥取、広島の障害のある人の表現の魅力と、その周辺にある関わりを紹介し、人間の表現が生まれる根源的な意味を問います。

日時:2月1日(金)～2月11日(月/祝)12:00～19:00 ※2月4日(月)休館

場所:京都場(京都市中京区西ノ京南聖町)

出展者:

井村ももか(滋賀/やまなみ工房)、XL(京都/スウィング)、春日一志(広島)、中村和暉(大阪/アトリエコーナス)、中村真由美(奈良/たんぽぽの家アートセンターHANA)、ポズック楽団(和歌山/Po-zkk)、松浦愛夢(兵庫/片山工房)、山本康介(鳥取/アートスペースからふる)

協力:

滋賀県健康医療部障害福祉課、京都府健康福祉部障害者支援課、大阪府福祉部障害福祉室自立支援課、兵庫県健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課、奈良県福祉医療部障害福祉課、和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課、NPO法人アートピアとっとり、NPO法人コーナス、NPO法人コミュニティリーダーひゅーるぼん、NPO法人スウィング、NPO法人100年福祉会片山工房、国際障害者交流センター・ビッグ・アイ、社会福祉法人グロー、社会福祉法人和歌山県福祉事業団、社会福祉法人やまなみ会やまなみ工房、社会福祉法人わたぼうしの会

<トークシリーズ「表現と支援について考える」>

福祉施設などでの支援の現場では、障害のある人が表現をすることをどう捉えているのでしょうか？ また、障害のある人の日常の活動を支えるなかで、表現と支援がどう結びつくのでしょうか？ 現場の実践者たちを招き、人が表現することの意味、多様な支援のあり方についてお話します。

・2月2日(土)18:00～19:30 木ノ戸昌幸(スウィング)、白岩高子(アトリエコーナス)

・2月9日(土)18:00～19:30 新川修平(片山工房)、山下完和(やまなみ工房)